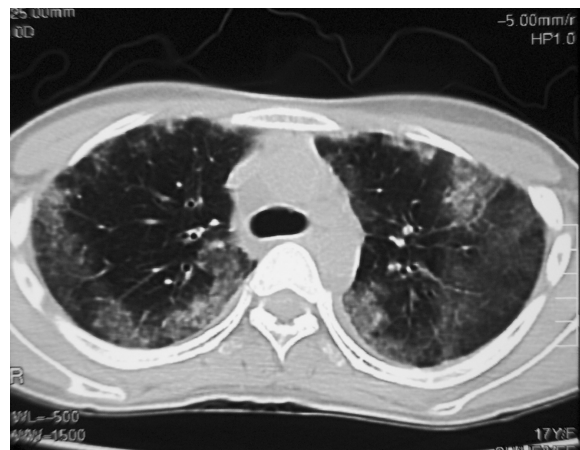
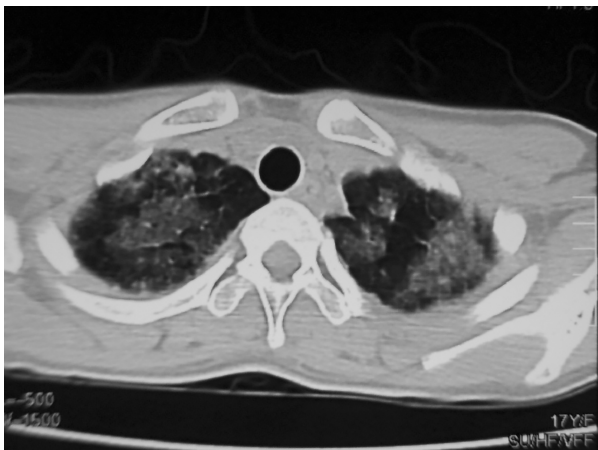


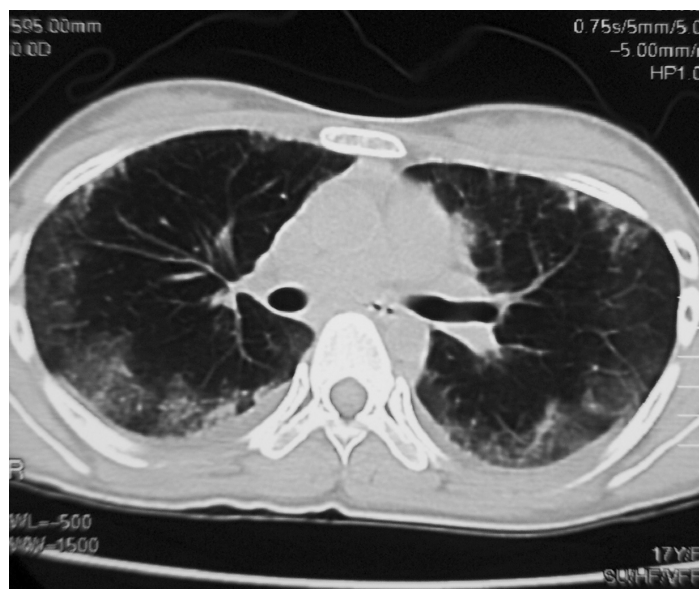
ケースカンファレンス（画像）

女子高校生

主訴は呼吸困難

幼少期より気管支喘息あり。この2～3週間、軽度の咳嗽と呼吸困難が続き、外来通院（服薬、吸入）を続けていたが改善がなかった。夜間、呼吸困難の増悪を自覚し、救急外来を受診。顔色不良で多呼吸を認めたが陥没呼吸は軽度。SpO₂は90%前後。発熱なし。呼吸不全にて入院となった。喘息以外に特記すべき病歴はない。





入院時の画像を掲載しましたが、誌面でどの程度再現されているかやや不安です。さて、診断はなんでしょうか？小児科医の私には正直、見当が付きませんでした。すぐに内科(呼吸器)の先生にコンサルテーションしたところ上記の胸部単純X線、胸部CTのみで入院当日にはほぼ正解を出していました。病変の分布はかなり特徴的なのだそうです。

鎌ヶ谷市医師会 広報担当理事

青い鳥こどもクリニック 引田 満